**「中国浙江省の剣道交流を終えて」**

2019年2月25日

執筆者：2回生　福間 華月

(島根県　県立大社高等学校出身)

私は、中国浙江省の剣道交流において2つのことを学ぶことができました。

1つ目は、剣道に対する意識です。中国の方たちは、私たちの稽古の様子を動画に収めたり、うまくなるためにはどうすれば良いのかと尋ねてきました。交流会に参加していた中国在住の日本人に話を聞くと、「中国では日本ほど整った環境で剣道をすることは難しい」と言っておられました。限られた時間や場所の中で少しでもうまくなるために工夫を凝らしているのが伝わりました。また、試合の時の応援が日本では見られないほど白熱しており、心からの応援は見ていてとても気持ちが良いほどでした。それに加え、自分自身のチームが負けても立派な技を打った相手へ敬意の拍手も行っていました。このような稽古へのあくなき探究心や相手への尊敬の念は剣道を行う上で形は違っていても世界でも共通しているという異文化理解を行うことができました。そして私たち日本人が見習うべき点も多くあるように感じました。

　2つ目は、学問への意識です。本プロジェクトで知り合った中国の大学生は私たちよりも文武両道の達成のために努力しており、強く刺激を受けました。多くの中国人学生は中国語だけでなく英語も流暢に話していました。私は中国語はもちろんの事、英語すらもあまり話すことができず、現地での意思疎通に苦労しました。彼らのことをもっと理解したいという気持ちから、外国語習得への意欲も沸きました。外国語習得は、今回のような剣道交流や、剣道を広めていくうえではもちろんのこと、これから社会人になっていく上で、国際的に活躍できる人間になるためにも重要になると思います。

最後に、今回のプロジェクトを経験し、今このような恵まれた環境で剣道ができていることをあたりまえだと思わず、感謝の気持ちを持ってして日々の稽古や学問に一生懸命取り組んでいきたいと思います。今後とも、指導陣の先生を含め、OB・OGの先輩方、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。